

令和6年1月25日開会

第761回むつ市教育委員会会議

参 考 資 料

報告第3号	1頁
報告第4号	7頁
報告第5号	9頁
報告第6号	11頁



む土維第 278 号
令和 5 年 11 月 29 日

むつ市教育委員会
教育長 阿部 謙一 様

申請者 住所 青森県むつ市中央 1 丁目 8 番 1 号
氏名 むつ市長 山本 知也



天然記念物下北半島のサルおよびサル生息北限地
現状変更の終了について

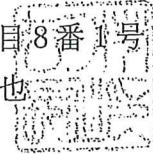
令和 5 年 3 月 3 日付け、む教生第 281 号をもって通知のあったことについて、事業が終了したので別紙のとおり関係書類を添えて報告します。



む土維第 278 号
令和 5 年 11 月 29 日

文化庁長官 都倉 俊一 様

申請者 住所 青森県むつ市中央一丁目8番1号
氏名 むつ市長 山本 知也



天然記念物下北半島のサルおよびサル生息北限地
現状変更の終了について

令和 5 年 2 月 17 日付け 4 文庁第 4358 号をもって許可のあったことについて、事業が終了したので別紙のとおり関係書類を添えて報告します。

担当: 都市整備部 土木維持課 佐藤
建設技術部 土木技術課 吉村

別紙

- 1 史跡、名勝又は天然記念物の別及び名称
天然記念物「下北半島のサルおよびサル生息北限地」
- 2 現状変更等に係る地域の地番
青森県むつ市脇野沢源藤城国有林 972 林班ロ小班
- 3 現状変更の内容
道路の復旧工事、及び復旧工事を行うための仮設工事
- 4 現状写真
(1) 着工前



(2) 着工後



む 教 生 第 241 号
令和 5 年 12 月 8 日

青森県教育委員会
教育長 風張 知子 様

むつ市教育委員会
教育長 阿部 謙一

天然記念物下北半島のサルおよびサル生息北限地
現状変更(道路復旧)の終了報告について(依頼)

令和 5 年 2 月 21 日付、青教文第 1251-1 号で通知のあった標記現状変更について、
むつ市長より提出された終了報告を、別紙のとおり文化庁長官あてに進達いたします
ので、よろしくお取り計らい願います。

担当:むつ市教育委員会 生涯学習課
森田 賢司
Tel: 0175-31-1188
FAX: 0175-24-1912
Mail: morita_kenji@city.mutsu.lg.jp

む 教 生 第 241 号
令和 5 年 12 月 8 日

文化庁長官 都倉 俊一 様

青森県むつ市教育委員会
教育長 阿部 謙一

天然記念物下北半島のサルおよびサル生息北限地
現状変更に係る終了報告について（進達）

天然記念物下北半島のサルおよびサル生息北限地の下記現状変更について、むつ市長より終了報告が提出されましたので、別添のとおり進達します。

記

令和 5 年 2 月 17 日付、4 文庁第 4358 号で許可された
天然記念物下北半島のサルおよびサル生息北限地の現状変更（道路復旧）

担当：青森県むつ市教育委員会 生涯学習課
森田 賢司
Tel：0175-31-1188
FAX：0175-24-1912
Mail：morita_kenji@city.mutsu.lg.jp



令和5年12月7日

むつ市教育委員会
教育長 阿部 謙一 様



所有者 住所 むつ市川内町銀杏木 19
銀杏木地区会
氏名 会長 山崎 幸悦

市指定天然記念物銀杏木の大イチョウ現状変更(剪定)の終了報告

令和5年11月27日付、指令第23号で承認を受けた標記現状変更(剪定)について、下記のとおり終了したため報告いたします。

記

1. 指定文化財の名称及び員数
銀杏木の大イチョウ
2. 所在地 青森県むつ市川内町銀杏平 54 番地
3. 現状変更の内容及び実施の方法
車道上に伸び、かつ下方に垂れ下がっている枝 3 本を剪定鋏で切断する。
4. 現状変更の実施日
令和5年12月4日(月)

【添付書類】 作業写真

1. 作業前



2. 作業状況



3. 作業終了



令和5年度青森県学習状況調査の結果

むつ市教育委員会 学校教育課

令和5年度 県通過率との差

※通過率(%)は、「総正答数/総解答数」で算出した数値の小数第1位を四捨五入した整数値で表している。

1) 全体の結果 ※下段の()内は昨年度の数値

【小学校5年生】

	むつ市	県	差
国語	60 (70)	64 (73)	-4 (-3)
社会	59 (58)	63 (62)	-4 (-4)
算数	52 (53)	58 (59)	-6 (-6)
理科	56 (51)	62 (56)	-6 (-5)
全体	57 (58)	62 (63)	-5 (-5)

【中学校2年生】

	むつ市	県	差
国語	58 (62)	58 (62)	±0 (±0)
社会	45 (48)	46 (51)	-1 (-3)
数学	41 (39)	42 (43)	-1 (-4)
理科	49 (40)	44 (42)	+5 (-2)
英語	50 (56)	50 (58)	±0 (-2)
全体	49 (49)	48 (51)	+1 (-2)

○小学校：すべての教科において、県通過率を下回り、県との差は昨年度並みである。

○中学校：理科及び全体において、県通過率を上回った。また、他の教科においても、県との差が縮まった。

2) 評価の観点別結果 ※下段の()内は昨年度の数値

【小学校5年生】

	知識・技能			思考・判断・表現		
	市	県	差	市	県	差
国語	71 (74)	74 (79)	-3 (-5)	48 (66)	53 (68)	-5 (-2)
社会	64 (62)	69 (66)	-5 (-4)	49 (52)	53 (58)	-4 (-6)
算数	61 (57)	65 (63)	-4 (-6)	45 (50)	52 (56)	-7 (-6)
理科	60 (54)	64 (58)	-4 (-4)	52 (48)	59 (54)	-7 (-6)

【中学校2年生】

	知識・技能			思考・判断・表現		
	市	県	差	市	県	差
国語	62 (60)	61 (60)	+1 (±0)	51 (64)	51 (63)	±0 (+1)
社会	50 (56)	49 (57)	+1 (-1)	39 (39)	41 (43)	-2 (-4)
数学	47 (47)	47 (52)	±0 (-5)	35 (29)	38 (33)	-3 (-4)
理科	50 (47)	45 (49)	+5 (-2)	48 (31)	44 (35)	+4 (-4)
英語	51 (61)	52 (62)	-1 (-1)	49 (53)	50 (55)	-1 (-2)

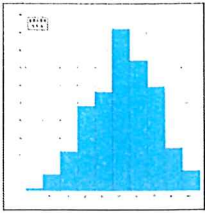
○小学校：すべての教科において、知識・技能、思考・判断・表現とも、県通過率を下回った。

○中学校：知識・技能において、県通過率を上回る教科が多かった。理科においては、知識・技能、思考・判断・表現とも県通過率を大きく上回った。

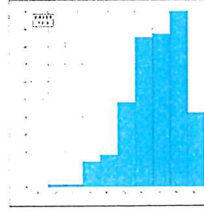
学力向上アクションプラン

むつ市総合学力調査において、令和6年度からの4年間で、市全体の正答率分布を望ましい分布にします。

望ましいと考える正答率分布のイメージ



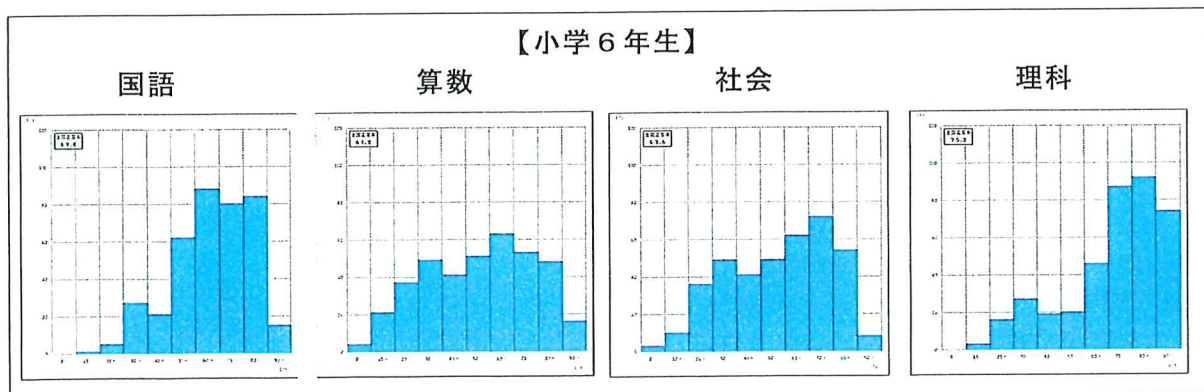
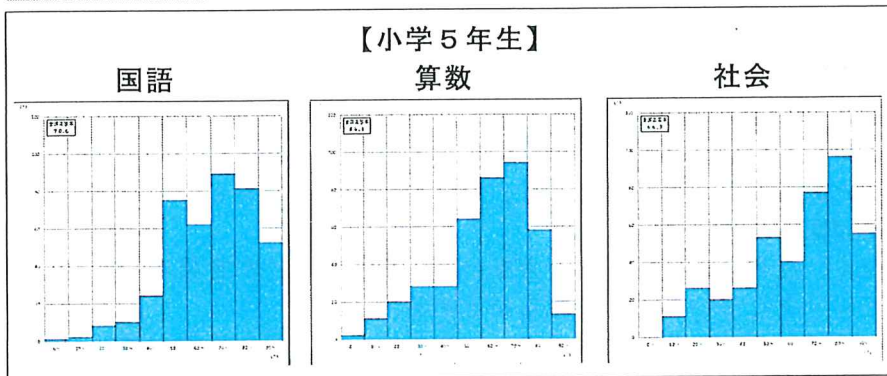
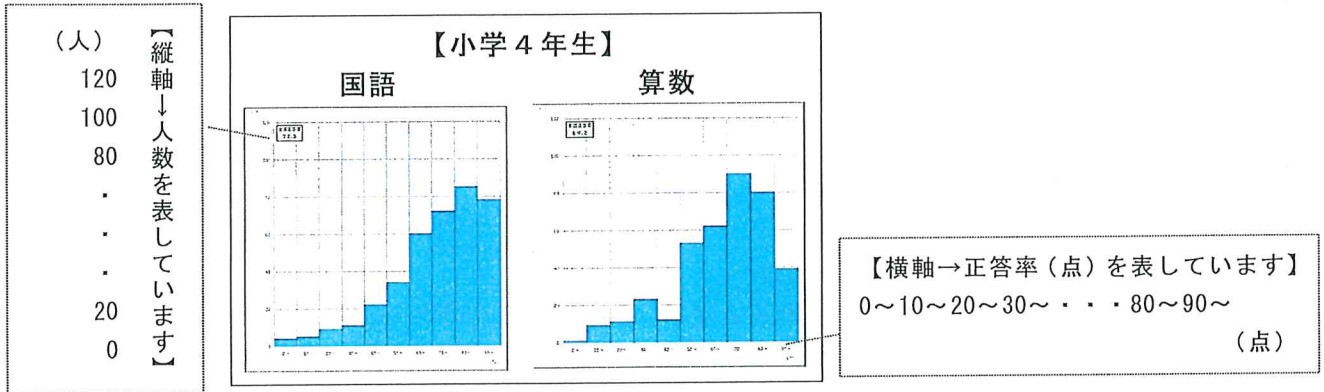
中位層が多いパターンです。授業のねらいを中位層におき、**下位層には個別指導**で対応することが考えられます。また、**上位層の児童生徒には活躍の場を設定**して、全ての児童生徒のレベルを引き上げていきたいところです。

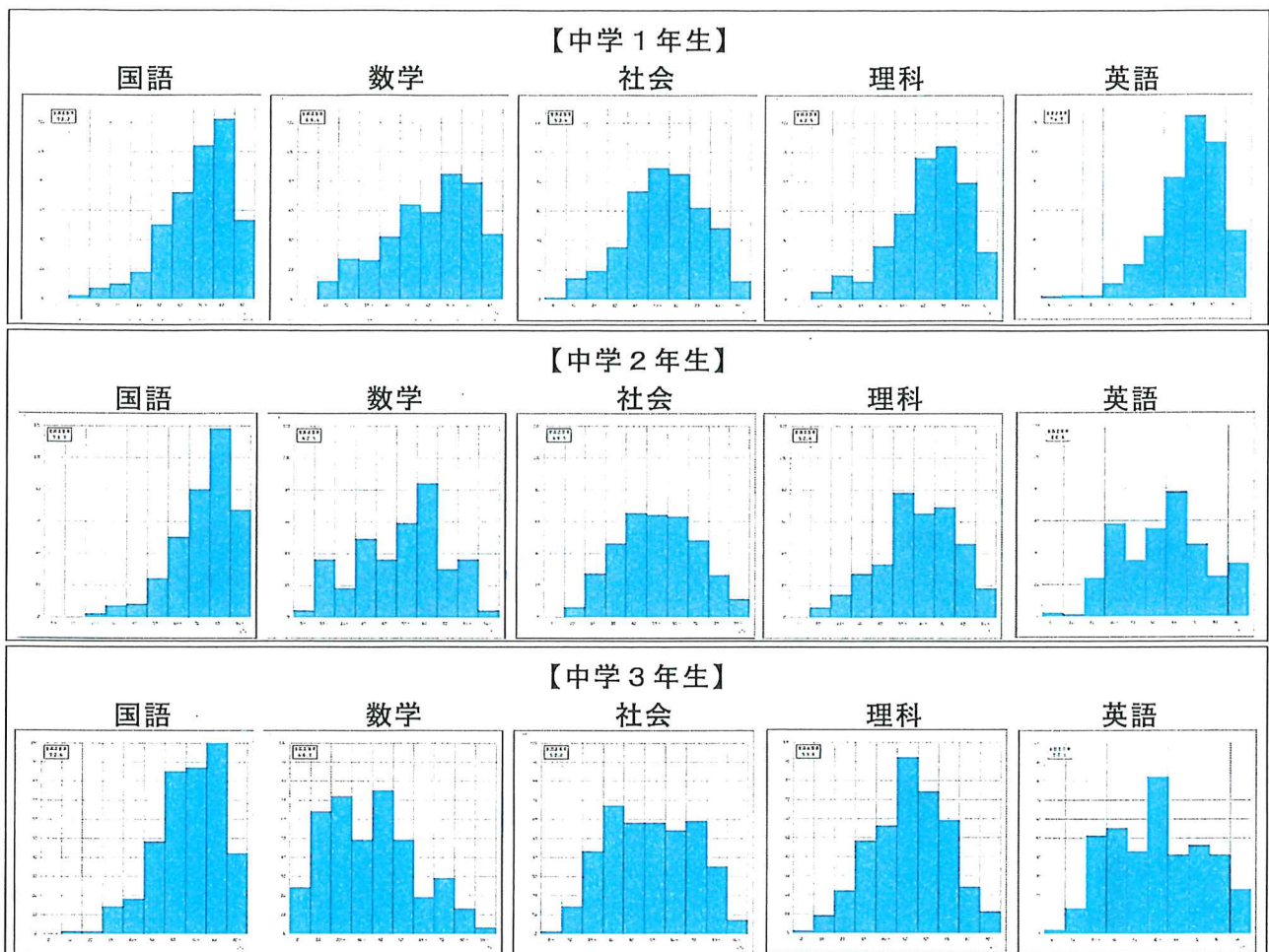


中～上位層が多い最も望ましいパターンです。個別指導が必要な児童生徒に配慮しつつ、ある程度高いねらいのもとに**一斉指導がスムーズに行える**と考えます。時間に余裕がある時は、**練習問題・タブレットドリル等による一層の定着**も期待できます。

令和5年度 むつ市総合学力調査 正答率分布

1 各学年の正答率分布





2 分布図から見てくる本市の傾向

学年や教科によって差はあるが、国語と理科においてはどの学年も、ほぼ望ましい分布と言える。また、社会もまずまずの分布を示している。そのため、算数・数学と英語を中心に、実態に応じた指導の工夫が望まれる。

アクションプランについての考え方

「青森県学習状況調査」の廃止に伴い、新たに「むつ市総合学力調査」をアクションプランの対象とした。プランの修正にあたって配慮したことは以下のとおりである。

- 一人一人の児童生徒が毎日楽しく学校に通うことが望ましい姿であると考え。そのためには、授業が分かる、楽しいと感じることが必要であり、日々そのような授業をしていくことで、結果として学力の向上が図られていく。
- はじめに点数ありきではなく、児童生徒の学びたい力をいかに高めていくかを根本理念とし積極的かつ挑戦的な授業づくりをしていくことをねらいとする。
- 下位層の児童生徒だけへの指導の充実に焦点を当てていくのではなく、個別最適な学びや学び合いの推進等により、一人一人の児童生徒への指導の充実を図っていく。

各学校での取組

- 学校は、児童生徒の学力の定着を保障する責務がある。未定着の状態に進級することは適切ではなく、当該学年内でしっかりと補充学習等で定着を図ることが重要である。
- 各学校においては、児童生徒の学習状況を把握し、適切な学習形態等を工夫しながら、補充学習にも力を入れ、次年度、同一集団で望ましい正答率分布を目指す。その結果として、一人一人の児童生徒の学力の定着を図っていく。
- 自校の正答率分布の変化、変容を評価の指標とする。

委員会での評価

- 各教科ごとの結果分析を行い、市全体及び各学校ごとの正答率分布を各学校に提供する。
- 副次的な指標として、教育委員会では全国比との相対的な点数評価を活用する。

